

令和 4 年大井町議会第 1 回定例会

一般質問書

令和 4 年 3 月

通 告 順	質 問 事 項	質問者	(分) 時間	頁
1	・町長の政治姿勢を問う ・新型コロナウイルス感染症の拡大時における対応について	清水亜樹	5 0	1
2	・あしがら上地区資源循環型処理施設整備について ・相和地区から通学する小中学生の移動手段について ・コロナ禍における町の対応について	鈴木磯美	5 0	2
3	・町のデジタル化戦略について	岡田幸二	5 0	3
4	・G I G Aスクール構想の進捗と今後の活用について	和田紀昭	4 0	4
5	・農的関係人口の創出・拡大による地域活性化について	黒岩陣太郎	5 0	5
6	・町立幼稚園・学校の今後のあり方について ・新型コロナウイルス感染症対策について	伊藤奈穂子	5 0	6
7	・町政運営について ・コロナ第6波大井町の現況について ・遊休農地（耕作放棄地）対策について	田村俊二	5 0	7
8	・町民に優しい「まちづくり」を問う	鈴木武夫	5 0	8
9	・町長が掲げた協働の取組状況と評価は ・限界集落が危惧される篠窪地区の現状と対策は	牧野一仁	5 0	9
10	・町道9号線（金子開成和田河原線）について ・コロナ禍における休校中の学校、児童コミュニティクラブの対応について	重田有紀	5 0	10

質問者	通告 1 番	通告時間 50 分
	1 2 番 清水 亜樹 議員	答弁者 町長・教育長
質問事項	1 町長の政治姿勢を問う 2 新型コロナウイルス感染症の拡大時における対応について	
要 旨	1 小田町長は、平成 30 年 12 月に就任され早くも 3 年と数か月が経過し、本年 12 月には任期が満了となる。これまで「共創・協働のまちづくり」を柱に町政運営にご尽力されてきたことと思うが、これまでの町政に対する姿勢や今後の意向などについて伺う。 (1) 選挙で掲げた公約や所信で述べられた主要な施策に対して、町長は 3 年間の実績をどのように捉えているのか。 (2) 残任期間 9 か月ほどだが、公約全ての実現が可能なのかを伺う。 (3) 町政 2 期目を目指す考えはあるか。 2 圧倒的な感染力を持つオミクロン株によって、新規感染者はわずかな期間で激増し、本町では自宅療養の増加や休園、学年閉鎖などにより、多くの不安な声を聞く。そこで状況や対応について伺う。 (1) 町内の保育所で一部休園とされたが、町としての対応は。 (2) 町内の幼稚園や小学校で、休園、学年閉鎖の措置がされたが状況や対応は。 (3) ワクチンの 3 回目接種が急がれるが、接種の状況は。 (4) 自宅療養者への支援の状況は。	

質問者	通告 2 番 8 番 鈴木 磯美 議員	通告時間 50 分
		答弁者 町長・教育長
質問事項	1 あしがら上地区資源循環型処理施設整備について 2 相和地区から通学する小中学生の移動手段について 3 コロナ禍における町の対応について	
要 旨	1 昨年の第 3 回定例会において「あしがら上地区資源循環型処理施設整備について」質問を行い答弁があったが、さらに議論を深める必要があると考える。そこで以下について伺う。 (1) 施設整備基本計画の進捗状況は。 (2) 老朽化する現施設に故障等が発生した場合の対応は。 2 本年度末には大井町地域公共交通計画が策定され、5 月からは「おいゆめバス」の本格運行が開始される予定となっている。そこで、相和地区から通学する小中学生の移動手段について以下のことを伺う。 (1) 現在の路線バスの利用状況と今後について。 (2) 「特バス」の運行内容について。 (3) 児童・生徒が減少する中、今後の移動手段をどう考えているか。 3 オミクロン株による新型コロナウイルス感染が拡大しており、誰もが感染するリスクがある状況となっている。町も職員・教職員の感染防止対策を講じていると思うが、以下について伺う。 (1) 抗原検査キットが入手困難な状況だが、町の備蓄状況は。 (2) 濃厚接触者等により、多数の職員・教職員が出勤できない場合の人員確保は。	

質問者	通告 3 番 6 番 岡田 幸二 議員	通告時間 5 0 分
		答弁者 町長・教育長
質問事項	町のデジタル化戦略について	
要 旨	現在、オミクロン株という変異株が流行しており、デルタ株の 2 倍のスピードで伝播し、私たちの生命や生活を大きく脅かしている。これまで、インターネットが普及し、デジタル化による便利な生活を享受してきたが、遠隔にいてもコミュニケーションをとることができるツールとして、その活用には拍車がかかっている。 また、行政のデジタル化（D X）は業務を効率化し、本来業務に取り組む時間を生むことにも繋がると考える。 そこで、町のデジタル化戦略について以下のことを伺う。 1 暮らし安全の推進について （1）孤独死を防ぐため「高齢者見守りシステム」を活用する考えは。 （2）各種会議において、W E B 会議システムを導入する考えは。 2 学校教育のデジタル化戦略について （1）学力向上のため、A I ドリルを導入する考えは。 （2）コロナやその他の事情で自宅学習を余儀なくされた児童・生徒にタブレット等を有効活用する考えは。 3 デジタル人材の活用及び育成について （1）「学びおおいサポーター制度」を活用する考えは。 （2）デジタル推進員を活用する考えは。 4 行政のデジタル化の進捗について （1）マイナンバーカードの取得状況と取得を促進する方策は。	

質問者	通告４番 ４番 和田 紀昭 議員	通告時間 ４０分
		答弁者 町長・教育長
質問事項	G I G Aスクール構想の進捗と今後の活用について	
要 旨	町内の全児童、生徒にＰＣ端末が配備され１年数か月が経過した。この予算は新型コロナウイルスにより予算が前倒しされ購入したものであり、今回のような感染症による学校の臨時休業等の緊急時においても、ＩＣＴの活用により子供たちが家にいても学習を継続できる環境を整備することを目的としている。また、それに伴いネットワーク環境の整備、授業支援ソフトのライセンス契約もすでに完了していることから設備面では配備完了していると考え。そこで以下の４点について伺う。 １ G I G Aスクール構想の進捗状況は。 ２ 先般、町内小学校においても学年閉鎖等の措置がされたが、ＩＣＴを活用した学習指導等を行われたのか。 ３ 今後、休校措置等以外の活用も期待できるが、どのような活用方法を考えているのか。 ４ G I G Aスクール構想を推進するにあたり今後の課題は。	

質問者	通告 5 番	通告時間 5 0 分
	2 番 黒岩 陣太郎 議員	答弁者 町 長
質問事項	農的関係人口の創出・拡大による地域活性化について	
要 旨	本町では、農業生産者の高齢化や担い手不足により耕作放棄地が拡大するなど、農業をとりまく環境の低下が問題となっている。今後、持続可能な農村を創造するためには、都市住民も含め、地域の支えとなる人材を拡大していくことが必要であり、都市住民等が農業に関わることで農村地域の関係人口である「農的関係人口」の創出・拡大や関係の深化を図っていく必要があると考える。そこで以下について伺う。 1 地域プロジェクトへの参画や農産物の購入など、都市部にいながら本町に関わることができる仕組みづくりが必要と考えるが見解は。 2 農業に関心を持つ人を幅広く対象として、継続的に本町に来てもらう機会を提供する考えは。 3 農業の担い手となる意向を持つ人が着実に就農できるようにするための方策は。 4 空き家バンクの取組みを通じて「農地付き空き家」の提供を行い、移住希望者を呼び込む考えは。 5 中高年の引きこもり対策として、農福連携による取組を推進すべきと考えるが見解は。 6 農的関係人口創出事業として「新たな特産品の開発」を行っていく考えは。 7 本町における農業の魅力を SNS 等により情報発信するプロモーション事業に取り組むべきと考えるが見解は。	

質問者	通告 6 番 1 3 番 伊藤 奈穂子 議員	通告時間 5 0 分
		答弁者 町長・教育長
質問事項	1 町立幼稚園・学校の今後のあり方について 2 新型コロナウイルス感染症対策について	
要 旨	1 本町では地域の特性を活かした特色ある学校づくりを進め児童・生徒の育成に努めていると認識しているが、昨今の少子化の進行や社会情勢の変化により、子どもを取り巻く環境も大きく変わってきていることから、社会の変化に応じた教育環境の整備が必要であると考え 4 点伺う。 (1) 相和幼稚園、相和小学校の園児、児童数の今後の推移は。 (2) 相和小学校は小規模特認校制度を導入し 6 年になるがこれまでの成果と課題は。 (3) 幼稚園・学校のあり方検討委員会での意見集約を受け、町として今後の方向性は。 (4) 今年度からコミュニティスクール制度が導入されたが、その成果と今後の取組は。 2 全国で新型コロナウイルスの感染拡大が続いている中で本町の感染者も今までに無い早さで増加していることを踏まえ 2 点伺う。 (1) 3 回目のワクチン接種の予約状況と実施状況は。 (2) 国の臨時交付金を活用した支援策は。	

質問者	通告 7 番 1 0 番 田村 俊二 議員	通告時間 5 0 分
		答弁者 町長・教育長
質問事項	1 町政運営について 2 コロナ第 6 波大井町の現況について 3 遊休農地（耕作放棄地）対策について	
要 旨	1 2 0 1 8 年 1 2 月に小田町政が発足し、今年 4 年目の最終年を迎える。これまで様々な課題解決に取り組まれてこられた。この間、コロナ禍対応に忙殺され、今また第 6 波の状況下であり大変ご苦勞されているものと推察する。これまでに振り返り、公約の成果と課題等をどのように評価されているのか次について伺う。 (1) 小田町政の 4 年目の総評と町政運営について。 2 「オミクロン株」の急拡大と第 6 波の収束の兆しが見えない。まん延防止等重点措置適用の期間は、3 月 6 日まで延長されることになった。本町の感染状況、教育機関等の状況等について伺う。 (1) コロナ罹患者の状況は。 (2) 保育園、幼稚園の状況と対応は。 (3) 小学校、中学校等の状況と対応は。 (4) 町民への公表のあり方は。 3 2 0 2 0 年 3 月定例会一般質問「遊休農地(耕作放棄地)対策は」で「人・農地プランを作成し、担い手の明確化、農地の集約化を進める。」との答弁があった。その後の進捗状況について伺う。 (1) 「人・農地プラン」の進捗状況について。	

質問者	通告 8 番 7 番 鈴木 武夫 議員	通告時間 50 分
		答弁者 町長・教育長
質問事項	町民に優しい「まちづくり」を問う	
要 旨	町民が安全・安心に暮らしていける町になるよう、次のことを伺う。 1 相模金子駅南側の市場踏切は、改良工事が行われており、踏切西側は道幅が広くなり安全になった。しかし、東側は現状のままであり、踏切を渡るのに危ない状態である。踏切東側の改良工事を実施する計画はあるのか。 2 町民が安心してトイレが使えるように、公共施設のトイレを全部洋式トイレにする考えはあるのか。 3 役場庁舎南側の駐車場のアスファルト舗装が痛んでいる。町民が安全に使えるように整備する考えはあるのか。 4 今年の「ねんりんピック神奈川」で、大井町はペタンク競技の会場になる。ペタンク競技を今まで以上に町内に普及させる計画はあるのか。	

質問者	通告 9 番 1 1 番 牧野 一仁 議員	通告時間 5 0 分
		答弁者 町 長
質問事項	1 町長が掲げた協働の取組状況と評価は 2 限界集落が危惧される篠窪地区の現状と対策は	
要 旨	1 町長が公約に掲げた協働のまちづくりの実現のため協働推進課を新設し取り組んできたが、その状況と評価について伺う。 (1) 民間の任意団体である自治会は町としても必要な団体であると自治基本条例で明確にされている。加入率の減少や役員のなり手不足など自治会存続の問題を抱えているが町の見解は。 (2) 事務事業評価では自治会担当職員制度の運用によりの確な地域活動のサポートができたと評価しているが、どのようなものであったか。 (3) 町長の自己評価は。 2 限界集落が危惧される篠窪地区の現状と対策について伺う。 (1) 篠窪地区の高齢者比率と空き家の状況は。 (2) 自治会等のコミュニティは維持できているのか。 (3) 人が流出し過疎化が進む要因は何か。 (4) 企業誘致や移住・定住、空き家利用などの検討はされたか。	

質問者	通告 10 番 3 番 重田 有紀 議員	通告時間 50 分
		答弁者 町長・教育長
質問事項	1 町道 9 号線（金子開成和田河原線）について 2 コロナ禍における休校中の学校、児童コミュニティクラブの対応について	
要 旨	1 町道 9 号線の工事着工に伴い、説明会が開催された。大井町の将来にとって重要な位置づけになるとされているが、小学校と隣接することや通学路の変更が必要とされることから、不安の声も聞かれる。子どもたちの安全を守ることが最優先課題であるとの認識を共有するため、以下のとおり伺う。 （１）工事期間中の安全対策、学校生活への影響に伴う、学校、地域との連携は （２）信号設置箇所の検討は （３）町道 5 号線の拡幅工事は （４）今後の情報共有のあり方は 2 オミクロン株の拡大に伴い、近隣市町においても、休校、学年学級閉鎖が相次ぎ、本町も例外ではなかった。突然の休校に肩を落とした児童は少なくなかったと推察する。不登校児童数は 8 年連続増加、自殺児童数も過去最多、文部科学省は、極めて憂慮すべきであると警鐘を鳴らす。このようなときだからこそ、いかなる方法でも、学校と子どもたちとがつながりを絶やさない努力が必要である。今回の学年閉鎖の対応について、以下のとおり伺う。 （１）情報発信、共有のあり方は （２）児童コミュニティクラブの対応は （３）学習の保障、タブレットの活用、オンライン授業開始は （４）感染予防対策における新たな人員配置は	